豊田氏と清水氏の

ちょっと行ってみいへんで!

~山川町周辺の 歴史を訪ねて~

今回は、山川町周辺の歴史を感じる散策の旅です。





徳島より西へ車で約1時間、 JR徳島線山瀬駅の近く、南東 方向旧道にある「猿田彦大明 神」の祠の所①より南へ少し 山を登った所に「山崎忌部神 社」②、③があります。この神 社は、徳島県民のご先祖に る忌部の大神(天日鷲命)を



忌部神社 社の祭神は天日繁命。后神言等

当社の祭神は天日繁命。后神言宮女命。天太五命。后神此理能資命。津咋見命。長白羽命。由布洲王命。在織比女命である。住時は黒岩と呼ばれる歳にあったが応来2年(1896年)秋の地震で社地が崩れ現地に祀られる様になったといわれる。忌都神社に就いては延喜神名様にも記載されて居り、明治4年(1871年)には国幣中社として列せられているが、その正確に就いては神社間に種々争いやもめごともあったが、忌都神社正確者の究資料に基く各方面からの考察に依って見ても忌都神社の環境山崎の地であることは先ず正しいと考えられる。大正、昭和、平成大嘗祭にはこの境内に織殿を設け荒妙を織り貢進した事績や裏山の忌部山一帯には古墳を初め数多くの歴史的事蹟を厳している。以上

祀り、古来より国家鎮護の神として多くの人の信仰を集めてきました。大嘗祭には木綿・麻布などを献上し、麻植郡の名の基になったと言われています。明治初めに忌部神社・式内大社が国幣中社となったときに色々な論争が起き、その時に徳島市二軒屋町勢見山に、国幣中社忌部神社を新設することで論争を決着させたそうです。この忌部山には、6世紀後半の古墳があるという事で近辺を探しました。細い道から急に広い二車線の道路に出て、どちらの方向に行っても不明で、しばらく探しましたが発見することができませんでした。



次に山瀬駅と山川駅の中ほどに青木城跡があるというので行ってみましたが、こちらもわかりませんでした。 現在は墓地になっているようです。

そんな状況で付近をドライブしていると「志良夜末比売 (白山)神社」の案内標識 4 が目に留まり、車を止めて石段 5 を上り始めました。急な坂を上っていくと古い木製の鳥居 6 があり、案内標識に従って山道を進むこと約1時間、なんと長い参道でしょう。途中、車道や石段、竹藪、木馬道等 7 を歩きやっとのことで「白山神社」 8 に着きました。ずっと続いた案内標識からもっと大きな神社と思っていましたが、コンクリート造りのこじんまり





したお社でした。体力に自信のある方は、ぜひこのアドベンチャーなルートに挑戦してください。あと淤謄夜末神社の案内標識も気になりますがこれは次の機会に。

お参りの後、車まで引き返し、次は「阿波和紙伝統産業会館」**②10** へ行きました。川田は手漉き和紙の生産で有名で、明治から大正にかけての最盛期には数多くの家で

作っていたようです。現在、川田和紙製造用具の多数が有形民俗文化財に指定され、製造された和紙が通商産業 大臣により伝統的工芸品として指定されました。また同会館ではちぎり絵教室や藍染教室、絵手紙教室等も開か れており色々な和紙の販売もしております。

ここを出て一路、池田方面へ。途中左折して美郷方面へと進み「美郷ほたる館」の少し手前の「物産館」**①**に立ち寄り昼食、地場の産物等を見学後ほたる館へ。ホタルの時季にはホタルの発生地としてたくさんの人が訪れるようです。水棲のゲンジボタル、ヘイケボタルや陸棲のオバホタル、ヒメボタル等が付近一帯飛び交うとのことです。また、川田川の上流には雄大な景観の母衣暮露の滝があるとのことです。ホタル館を出て少し川上へ行った所で右下へ下るような道を行き川田川を渡り高開地区へ。同地区は「高開の石積み」として文化庁から重要地域の指定を受けて、年末は石積みのライトアップや4月の芝桜等、非常に魅力のある山村集落です。道が狭いので混雑時期には一方通行になります。運転には十分ご注意ください。

帰りは美郷温泉のある道を通り川島へ抜ける下り道の途中、吉野川の流れや街並みのすばらしい景観を味わえました。山川町には、高越山、高越寺、また阿波忌部の祖天日鷲命を祀る高越神社や国の天然記念物の船窪のオンツツジ群落等があり、1日かけてゆっくりと楽しむことができます。

